

ベンチャー創出・育成方策に関する 専門的人材による支援

—知的財産評価・マネジメント専門家の立場から—

2003年3月11日

ピー・エル・エックス株式会社

代表取締役社長 大津山 秀樹

本日のプレゼンテーション



1. 知的財産の評価マネジメントを行う専門家の立場から

2. ベンチャー企業の資金調達を支援する立場から...

3. ベンチャー企業の経営者の立場から...

4.. 科学者を夢見る小学生の父親の立場から...

PLXのサービス

PLXは、お客様の知的財産価値を最大化させるため、知的財産のライフサイクル全般を通じ、お客様の知的資産マネジメント(IAM: Intellectual Asset Management)のプロセス構築の支援や、知的財産の評価など、専門的なサービスをご提供いたします。

IAMプラットフォーム

様々な手法による知的資産の評価・管理機能、並びに各種のデータベースの提供により、全社的な知的資産に関するERPシステム構築を実現

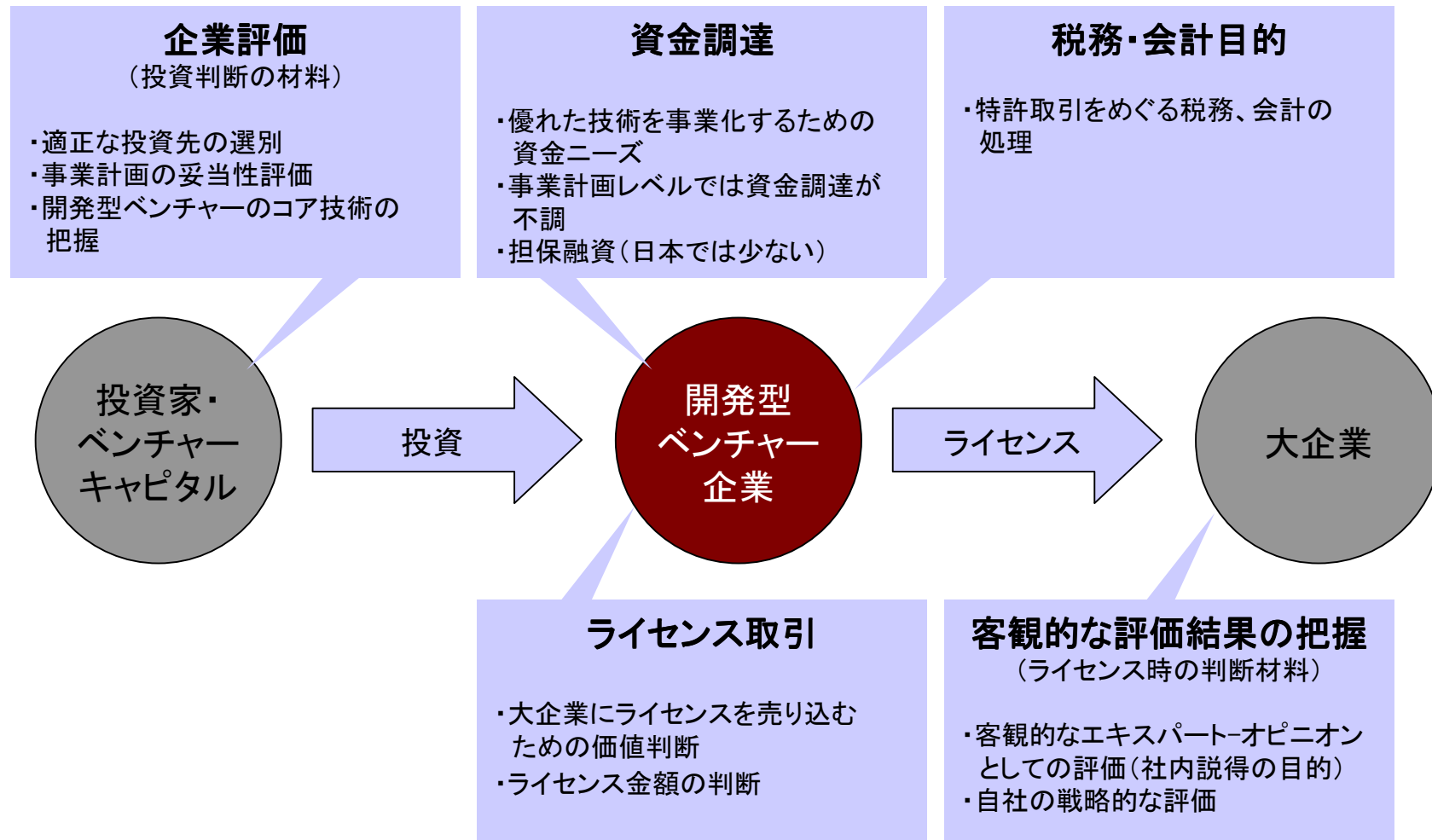
IPレポート

お客様のプロジェクト単位での知的資産評価ニーズにお応えする、評価レポートサービス

IAMコンサルティング

お客様の知的資産価値を最大化させるため、知的資産のライフサイクル全般にわたり、専門的なサービスを提供

知的財産評価の目的



知的財産の価値



知的財産価値の従属性

- 特許そのものが独立した「経済的価値」をもつことは非常に稀
- 何らかの事業に活用されて初めてその価値が生じる



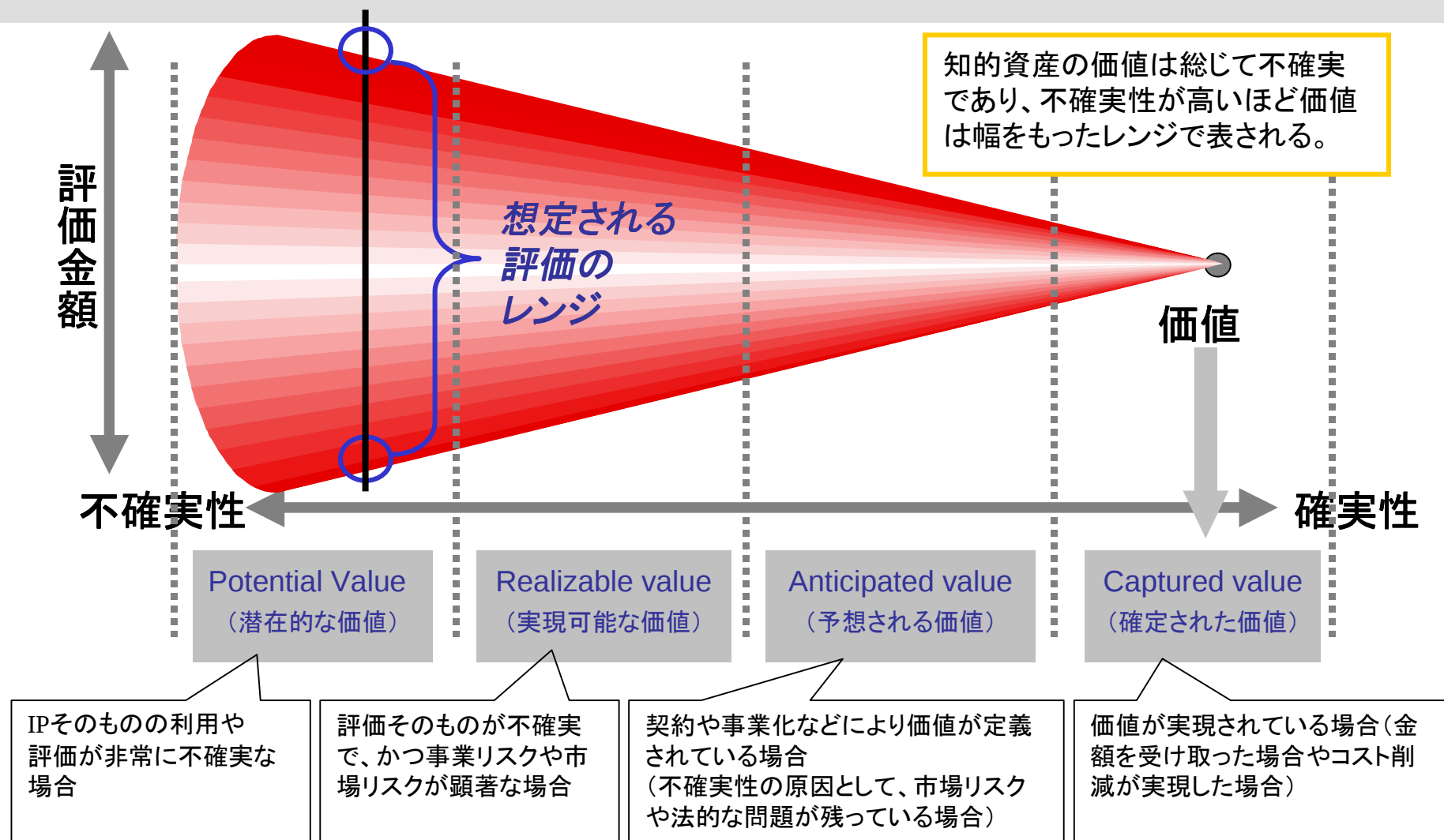
「誰が保有するのか」、「どのように活用されるのか」、「市場環境はどうか」、などの要因によりその価値は大きく変動

知的財産価値の多様性

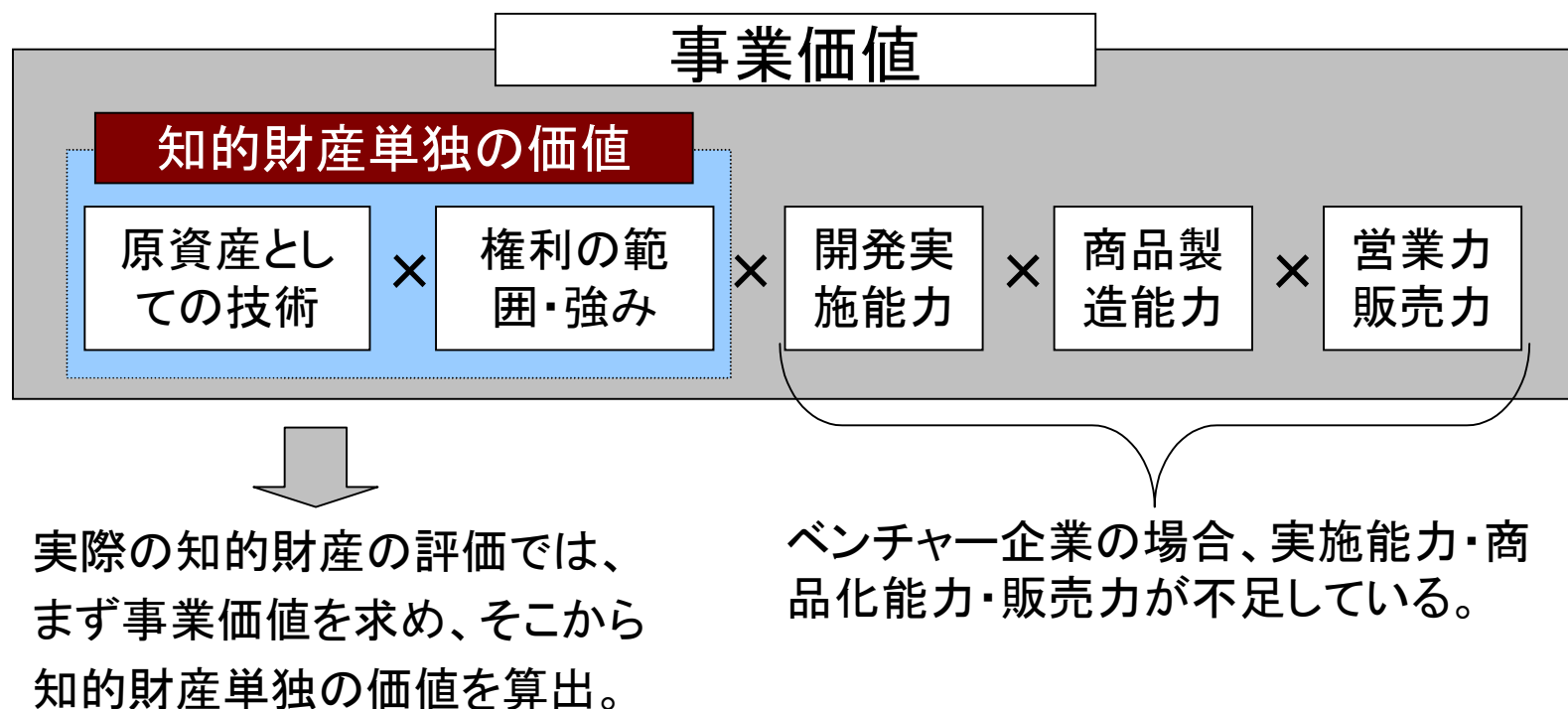
- 評価を必要とするシナリオ
- 評価の目的
- 採用する手法
- データ
- 評価者の立場

これらの要因により結果は大きく変動

知的財産価値の不確実性

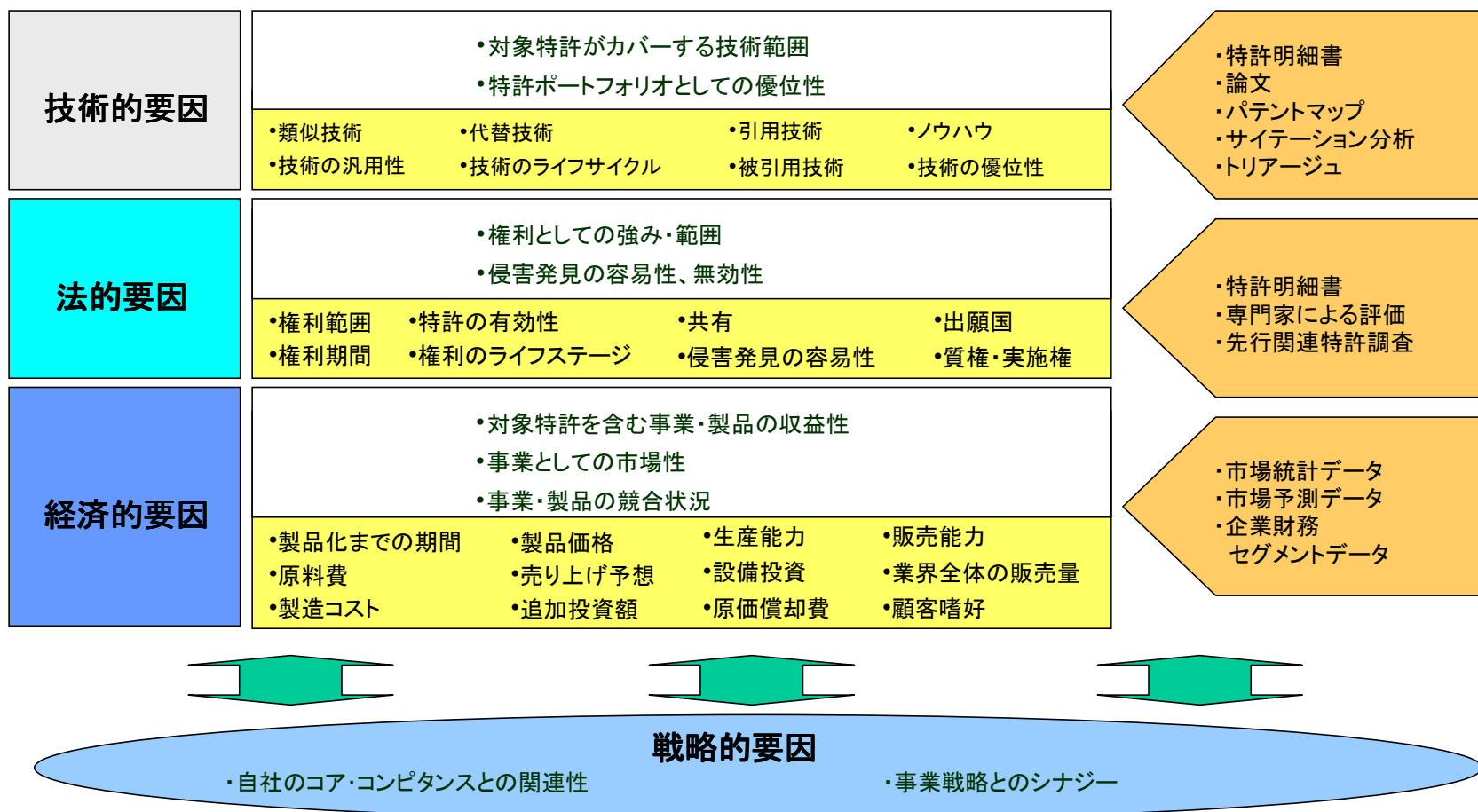


知的財産評価の考え方



ベンチャー企業の場合、事業価値における
知的財産単独の価値の比率が高い。

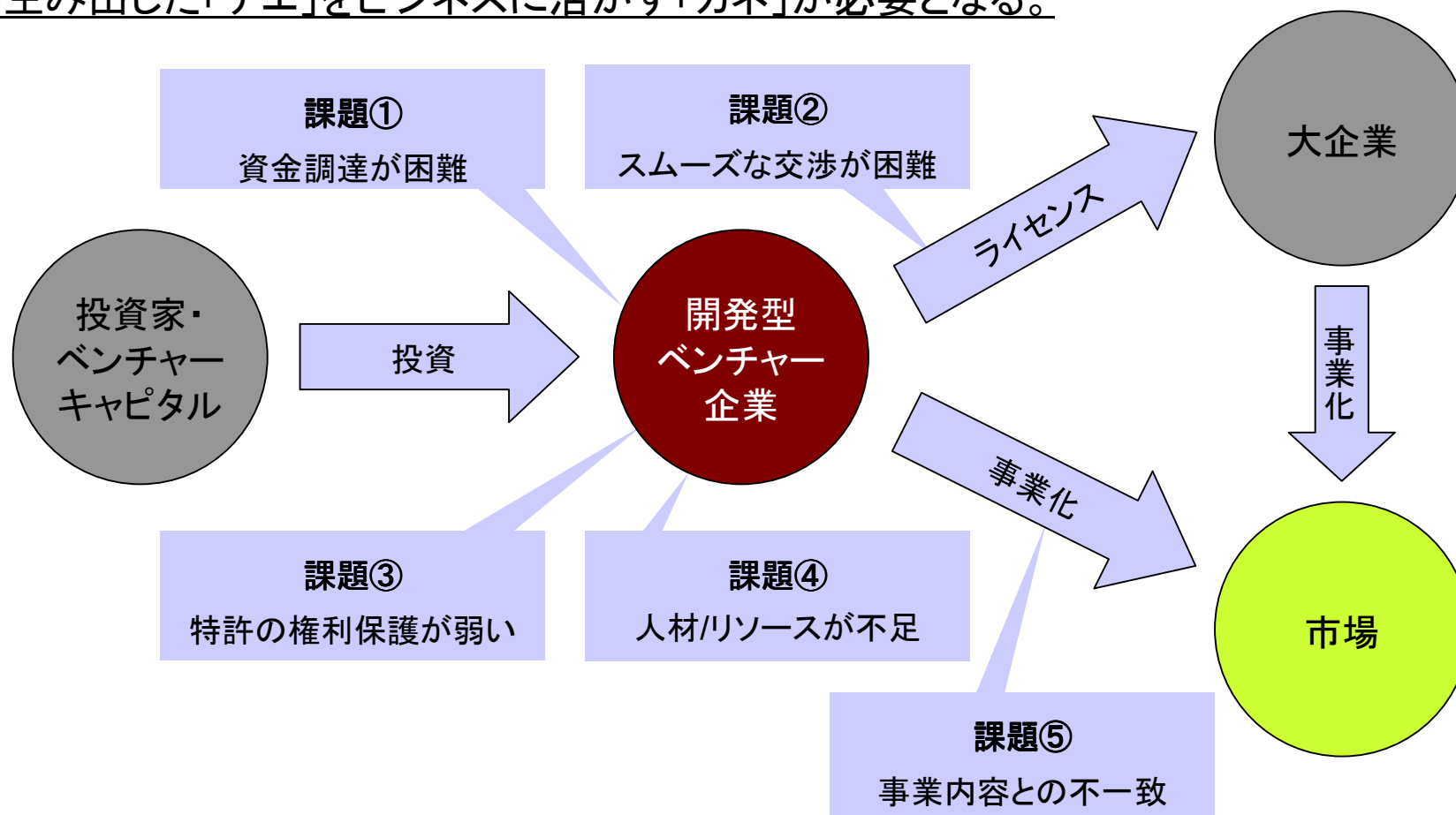
知的財産評価に必要な情報



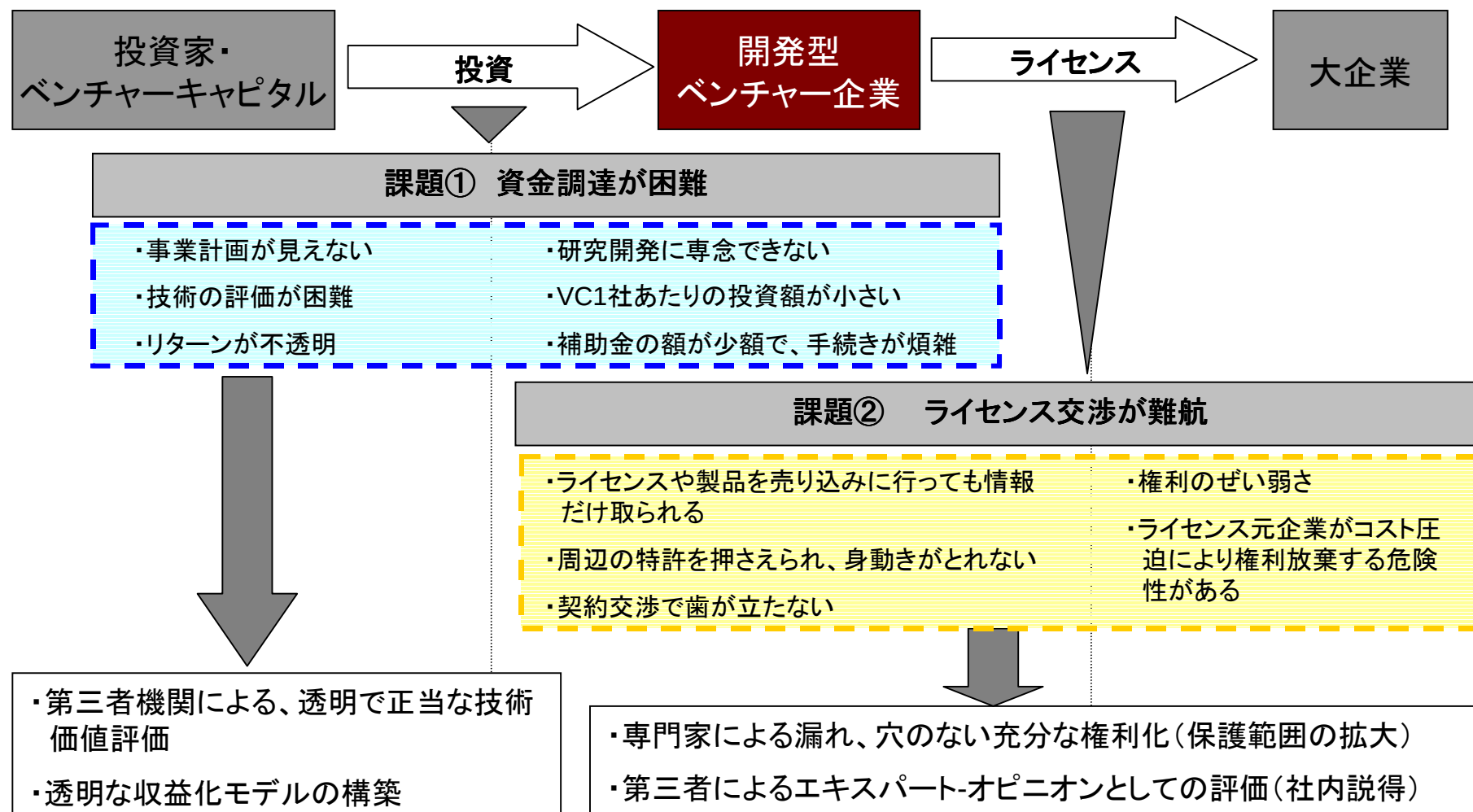
非常に多くの手間、ヒマ、コストが必要となる。

ベンチャー企業における課題

知的財産を生み出すのは「ヒト」であり、ベンチャー企業では特に「ヒト」が生み出した「チエ」をビジネスに活かす「カネ」が必要となる。



ベンチャー企業における課題



ベンチャー企業における課題

課題③ 経営者の意識

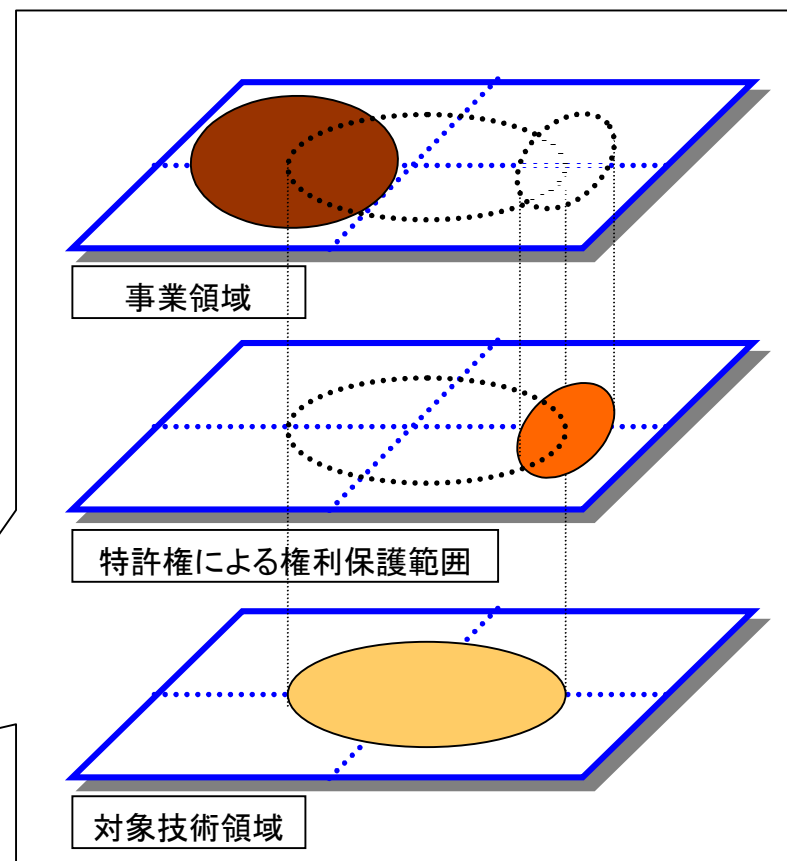
- ・自社で開発した技術に盲目的（客観的評価が不可能）
- ・技術動向、市場動向の知識不足

課題④ 人材／リソースの不足

- ・社内に知的財産選任を置くことができない
- ・COO、CFO等の経営陣を揃えられない
- ・活用できるアウトソース-サービスがない
- ・弁護士、弁理士などの専門家をリテインできない

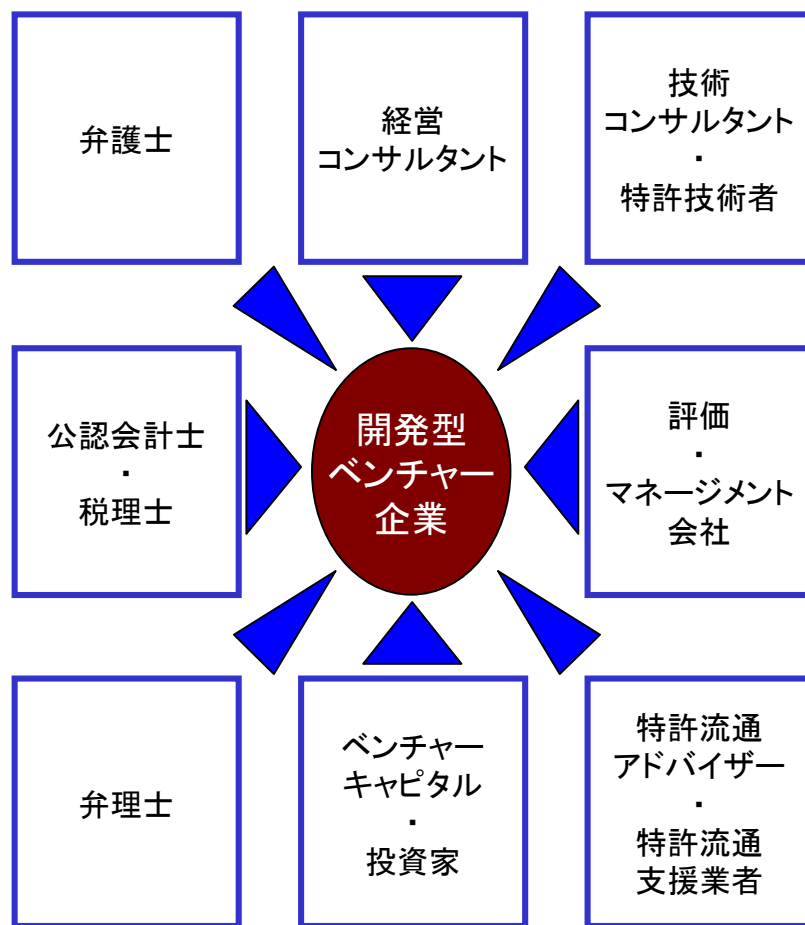
課題⑤ 事業内容との不一致

- ・肝心の事業そのものが保護されていないケースも多い
- ・競争力の維持が困難



専門的人財による適切なサービス支援が必要

専門家による支援と問題点



問題点

- 知財ビジネスそのものの市場規模がまだ小さい
- 多くはベンチャー企業
- 知的財産専門ビジネスそのものが人財不足
- サービスの対価はキャッシュ
- 技術移転(特許流通)には多くの施策と多額の資金が投入されている
- 本当に求められているのは、CTO、CIPO、CFOなどによる経営そのもの
- プロフェッショナルの報酬は安くない

ベンチャー支援のための 具体的方策 1



公的資金による 知財活用の インフラ整備

- ・特許データベースの無料開放
- ・教育セミナーの実施
- ・人材育成
- ・出願費用、維持年金の減免
- ・国選弁護人ならぬ支援プロフェッショナル

プロフェッショナル サービスの 明確化・体系化

- ・弁護士、弁理士、会計士などのプロフェッショナル-
サービスの総合サービスパッケージ化
- ・報酬体系の見直し

ベンチャー支援のための 具体的方策 2



人財の流動性

- ・人財の大部分は大企業、大学、研究所に蓄積
- ・様々な業界や複数の企業で磨きをかけた人財が必要
- ・大企業: ヒトを切れないからヒトを雇えない
→ 労働法の枠組を変える必要があるのでは！

意思決定と ガバナンス

- ・日本企業に欠けているのは「マネジメント」だけか？
- ・コンセンサス重視の意思決定
→ 意思決定そのものに慣れていない日本の経営者
- ・大企業偏重の産業構造、文化、価値観
- ・合理的な意思決定とアカウンタビリティ

ベンチャー支援のための 具体的方策 3



教育

- ・知的財産の本質は「異質」「異端」
- ・異端児を許容し、育てる教育環境が必要
- ・悪平等、道理、条理が通じない学校生活の改革が必要
(特に初等・中等教育が重要)



お問い合わせ先

ピー・エル・エックス株式会社

電話: 03-3503-0581 FAX: 03-3503-0580

E-mail: Japaninfo@plx.jp

www.plx.jp